

授業科目(ナンバリング)	テーマパーク論 (CB108) (実践的教育科目)			担当教員	早坂昌彦 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p>この講義の前半のテーマは、「ハウステンボスを作ろう！」である。すなわち、履修者は1985年にタイムスリップし、ハウステンボスの創業者になったつもりで、九州・長崎の一大プロジェクトであった1992年のハウステンボス開業までの歴史を迫体験していく。その過程で、新たにテーマパークなどの娯楽施設を作る際に外せない検討ポイント、具体的には、場所、コンセプト・ビジョン、市場分析、施設配置、目玉アトラクション・イベント、採用・研修、事業計画の考え方について、順を追って学ぶ。それによって、履修者は、これまでお客さんとして見ていたであろうハウステンボスなどの娯楽施設が、どのような勘所に基づいて運営されているのか理解することができる。講義の後半では、実際にハウステンボスからゲスト講師をお招きし(予定)、現在のハウステンボスがどのように運営されているのか、どのような課題を持っているかについて学ぶ。その話を聞いた上で、履修者には実際にハウステンボスに実習として訪問してもらい、こちらから提起した課題に関して、各自の考えをレポートにまとめてもらう。その中で興味深いレポートについて、最終講義で履修者に発表してもらう。</p> <p>以上のような進め方により、履修者が必要な専門力、コミュニケーション力を身に付け、本学に隣接したテーマパークであるハウステンボスに対し、より深い関心、愛着を持ち、今後のより主体的な学びにつなげていってもらうことが、本講義の狙いである。</p>							②③④⑥⑦ ⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	テーマパークなどの娯楽施設を作る際に外せないポイントについて、観光マネジメントの観点から、理解することができる。				・小テスト ・課題レポート(1回目)	30% 30%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	講義の中で提起された課題に関し、実際にハウステンボスに実習に行った上で、自分の考えをまとめ、全履修者の前で適切に発表することができる。				・課題レポート(2回目)	40%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>毎回の講義において、内容の理解の確認・定着のため、ポートフォリオを活用して小テストを行い、その結果に基づき30%の評価を行う。また、講義で学んだ知識を踏まえ自分事として考えをまとめ、その考えを他者に説明できるようにするために、8回目(予定)の講義および12回目(予定)の講義において、計2回の課題レポートを課し、その内容に基づき70%(30%+40%)の評価を行う。なお、2回目の課題レポートで興味深いものについて、最終講義でその内容を皆の前で発表してもらう。課題レポートのフィードバックは適宜ポートフォリオや講義時に行う。</p>							
授業の概要							
<p>この講義の前半では、「ハウステンボスを作ろう！」というテーマで、新たにテーマパーク等の娯楽施設を作る際に外せない検討ポイントについて、順を追って学ぶ。後半では、実際にハウステンボスからゲスト講師をお招きし(予定)、現在のハウステンボスがどのように運営されているのか、どのような課題を持っているかについて学ぶ。</p> <p>定期試験は行わないが、毎回行う小テストと、2回課すレポートで全ての評価を行うので、講義期間を通じて積極的・主体的な参加が求められる厳しい講義となる。よって、そのような覚悟のない学生は履修しないでいただきたい。</p> <p>なお、この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に定めない。毎回の講義時にプリントを配布する。</p> <p>参考書：神近義邦「ハウステンボスの挑戦」講談社、澤田秀雄「運をつかむ技術～18年間赤字のハウステンボスを1年で黒字化した秘密～」</p> <p>指定図書：特になし。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>毎回の講義で学んだことを踏まえ、小テストおよび課題レポートを課すので、講義の復習は必ず行うこと。また、私語など他の受講者に迷惑をかける講義は厳禁とし、そのような行為が特定された場合、その学生の評価に加味する。特に、外部からゲスト講師が来た場合は、感謝の気持ちをもって、より静粛に、集中して授業を聴いてもらいたい。なお、この講義は2年次に設定されている「IR論」(前期)または「Integrated Resort of Japan」(後期)も併せて受講することにより、相乗的な学習効果を見込んでいる(ただし受講は必須ではない)。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション～ 1985年にタイムスリップ し、ハウステンボスを作 ってみよう！～	授業のオリエンテーションを行う。	予習：シラバスを読んでく る。
2	場所を選ぶ	テーマパークを作る際、場所・立地をどのように決める べきかについて学ぶ。	復習：前回の配布資料を再 度読んでおく
3	コンセプト・ビジョンを 考える	テーマパークを作る際、そのコンセプト・ビジョンをど のように設定すべきかについて学ぶ。	復習：前回の配布資料を再 度読んでおく
4	市場規模・ターゲット顧 客を想定する	テーマパークを作る際、その市場規模・ターゲット顧客 をどのように想定するのがよいか学ぶ。	復習：前回の配布資料を再 度読んでおく
5	街を作り、各施設を配置 する	テーマパークを作る際、どのように街を計画し、各施設 を配置すべきかについて学ぶ。	復習：前回の配布資料を再 度読んでおく
6	目玉となるアトラクショ ン・イベントを考える	テーマパークを作る際、目玉となるアトラクション・ イベントをどのように企画・設計すればよいかについて 学ぶ。	復習：前回の配布資料を再 度読んでおく
7	人を採用し、研修する	テーマパークを作る際、どのように人を採用し、研修す ればよいかについて学ぶ。	復習：前回の配布資料を再 度読んでおく
8	事業計画を作ってみよ う！	ここまでの講義を踏まえ、実際にテーマパークの事業計 画を作る方法を学ぶ。	復習：前回の配布資料を再 度読んでおく
9	現在のハウステンボスの 運営①テーマパーク部門	現在のハウステンボスのテーマパーク部門がどのように 運営されているかについて学ぶ。	復習：前回の配布資料を再 度読んでおく 予習：現在のハウステンボ スの取組みを調べておく
10	現在のハウステンボスの 運営②ホテル・レストラ ン部門	現在のハウステンボスのホテル・レストラン部門がどの ように運営されているかについて学ぶ。	復習：前回の配布資料を再 度読んでおく 予習：現在のハウステンボ スの取組みを調べておく
11	現在のハウステンボスの 運営③マーケティング部 門	現在のハウステンボスのマーケティング部門がどのよう に運営されているかについて学ぶ。	復習：前回の配布資料を再 度読んでおく 予習：現在のハウステンボ スの取組みを調べておく
12	現在のハウステンボスの 運営④人事部門	現在のハウステンボスの人事部門がどのように運営され ているかについて学ぶ。	復習：前回の配布資料を再 度読んでおく 予習：現在のハウステンボ スの取組みを調べておく
13	ハウステンボスでの実習	提起された課題を踏まえ、ハウステンボスで実習を行う。	復習：前回の配布資料を再 度読んでおく 予習：現在のハウステンボ スの取組みを調べておく
14	まとめ～今後の学びに関 するガイダンス～	これまでの講義のまとめと、今後のより深い学びに関す るガイダンスを受ける。	復習：実習結果を踏まえレ ポートを作成する
15	各自の実習結果の紹介・ プレゼンテーション	実習を踏まえまとめたレポートの発表を行う。	予習：発表の準備を行う